

こ た ん の れ き し

古潭の歴史

石狩市厚田区古潭（アイヌ語でコタンウンペツ、村の川の意）は、江戸末期はこの地域の漁業の中心地であり明治初期は厚田郡の行政の中心でした。

古潭に通年で和人が住むようになったのは安政5（1858）年からですが、この頃からこの地区の漁場開拓が本格的に始まりました。古潭・ヲショロコツ（押琴、古潭と隣接）地区には運上屋が置かれて、アツタ場所の拠点として栄え、押琴の入江は天然の良港として、多くの弁財船が停泊していました。



明治3（1870）年には、古潭に開拓使厚田出張所が置かれました。これらを記念した弁財船投錨地碑（平成5年建立）と厚田村発祥之地碑（昭和43年建立、平成5年に現在地へ移転）が古潭漁港入口に建っています。

その後の古潭の出来事を年代順に記します。

- 明治4（1871）年 大火災で村のほとんどが焼失した
- 明治5（1872）年 古潭八幡神社が創建された
- 明治6（1873）年 佐藤弁蔵が駅逓通行取扱の囑託を受けた
- 明治8（1875）年 佐藤弁蔵が郵便取扱を命じられた
- 明治9（1876）年 佐藤弁蔵が自費で教員を雇い駅逓所で児童の教育を始めた（古潭教育所）
- 明治13（1880）年 厚田郡10村各村の戸長役場が設置された
古潭教育所は厚田教育所の分教場となった
- 明治15（1882）年 戸長役場が別狩村に移転した。これ以降、古潭は厚田郡の中心地ではなくなった
- 明治17（1884）年 尋常小学校が開設された
- 明治27～28（1894～1895）年頃より 農業者が移住するようになった。
- 明治35（1902）年 古潭は、押琴、小谷、別狩、厚田、安瀬、濃昼の6村と合併して厚田村となった
- 昭和20（1945）年 北海道空襲の被害を受け小学校が全焼（住民の被害はなし）した
- 昭和26（1951）年 厚田中学校古潭分校が開設した（小学校と併置）
- 昭和30（1955）年 厚田中学校古潭分校が独立した（古潭小中学校）
- 平成2（1990）年 古潭小中学校が閉鎖された
- 平成17（2005）年 厚田村が石狩市と合併して、石狩市厚田区古潭となる

（石井滋朗）

表：古潭人口一覽

年	明治20年	明治33年	昭和43年	昭和60年	平成17年	平成28年
人口数(人)	296	517	286	158	75	48

- (1) 石狩市郷土研究会（2012）石狩の碑 第四輯 厚田区編。石狩市郷土研究会。
- (2) 小寺幸一（2016）古潭校115年の回顧～石狩市郷土研究会例会レポート。石狩市郷土研究会。
- (3) 下中直人（2003）北海道の地名。平凡社。
- (4) 鈴木紘男（2006）あつたの歩み。石狩市厚田区。